

体育教師の社会的地位に関する研究 (II)

～高校生をもつ父母による評価～

○岡田 猛 武隈 晃 (鹿児島大学教育学部)

体育教師、職業、地位、父母

目的

体育教師の社会的地位は、その職を占める者の職能の他に、歴史的・社会的に形成される社会的評価に影響されるところも大きい。

本研究は、高校生の子をもつ父母によって体育教師がどのように評価されているかを明らかにする。

方法

1985年12月に、鹿児島県内の、公立普通、公立商業、公立体育、私立普通科に在籍する高校生の父母450人を対象にして、生徒を介した配布調査法により質問紙調査を実施した。有効回答者数は227人(50.4%)。

結果と考察

① 各種職業における教師の地位

具体的に15の職業をあげ、順位をつけさせたところ、高校教師5位、中学校教師7位、小学校教師9位となり、教師全体としてはほぼ中位を占めることとなった。ここに示されるように、教師の職業的地位は学校段階によってそれぞれの間には他の職業を挟むほどに異なっていることも注目される。次に述べる担当教科と同様、勤務する学校段階も教師という職業の社会的地位を規定する要因であるといえる。

② 教科間における体育教師の地位

子どもの高校教師志望を肯定する親に対して、希望担当教科を評価させたところ、国語、英語、数学、社会、体育、理科、技・家、音楽、美術の順位であった。

体育が大学受験5教科に続く地位を占めるとされる大方の調査結果と異なる部分については、今回の調査対象の特性を反映したものであると考えられる。

③ 体育教師の地位を規定する要因の検討

9教科中体育教師を1～5位、6～9位にそれぞれ評価した父母の2グループを外的基準とし、林の数量化Ⅱ類を用いて規定要因を分析した結果が右表である。

「クラブへの親の態度と子の参加」「学校種」「年齢」が強い規定力を持ち(P<.001)、「学歴」「職業評価の基準」「望ましい教師のタイプ」(P<.01)、「運動の好嫌」「職業」(P<.05)もそれぞれ有意な規定力を示した。

変数の規定内容を見るために示されたカテゴリースコアも幾つかの興味ある結果を提供している(例えば「クラブへの親の態度と子の参加」では、「親積極的・子不参加」「親消極的・子参加」の親子の不一致が体育教師の低い評価へ機能している)。

まとめ

戦後、体育教師の養成課程においては大きな改革がなされ、教育実践についてもおおくの研究が積み重ねられてきた。

これらの歩みは決して平坦ではなく紆余曲折を余儀なくされているのであるが、上記の制度改革や教育実践の積み重ねが体育教師の社会的地位にどのように反映しているかを知ることは、これからのあり方を考えるうえで意味のあることであると思われる。

例えば、今回の調査において、「社会的緊要度」が非常に高いにもかかわらず「専門職型」を指向する父母の評価がそれ程高くない結果がでているが、これなども今後の専門職としての体育教師の確立を目指すうえで参考になるものと思われる。

高校体育教師の社会的地位を規定する要因の分析  
～父母を対象にした林の数量化Ⅱ類による～ 1985

変数	カテゴリー	因子スコア	偏相関
クラブへの親の態度と子の参加	親積極的・子参加	.384	.369 *** ①
	親積極的・子不参加	-.631	
	親消極的・子参加	-.611	
	親消極的・子不参加	-.368	
学校種	公立・体育	.810	.348 *** ②
	私立・普通	.036	
	公立・商業	.243	
	公立・普通	-.316	
年齢	35～40	.561	.299 *** ③
	41～45	.149	
	46～50	-.451	
	51～60	.212	
学歴	中学校	-.032	.285 ** ④
	高校	.286	
	短大・大学	-.496	
職業基準	収入	-1.268	.256 ** ⑤
	特別の能力	-.171	
	社会的尊敬	.088	
	教育程度	-.169	
教師の専門職型	労働者型	.319	.238 ** ⑥
	専門職型	.207	
	専門職型	-.324	
運動の好嫌	好き	.169	.222 * ⑦
	嫌い	-.770	
	どちらともいえない	-.364	
職業	公務員	.445	.201 * ⑧
	会社員	-.080	
	農・漁業	-.098	
	主婦	.190	
	商・工・サービス業その他	-.273 .004	
担任を気にするか	略	略	.167 ⑨
子の性	〃	〃	.111 ⑩
親の性	〃	〃	.074 ⑪
クラブの経験	〃	〃	.044 ⑫

外的基準 1～5位 67人 平均数値 .626

6～9位 54人 " -.776

相関比 .486 \*\*\*<.001 \*\*<.01 \*<.05

社